

第9回門真市魅力ある教育づくり審議会

(第7回つながりのある教育の創造部会) 議事録

開催日時 平成30年7月10日(火) 午後6時10分～午後7時10分

開催場所 門真市役所本館2階大会議室

出席者 佐久間敦史、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、齋藤耕司

事務局 水野教育部次長、中野教育総務課長、三村学校教育課長、高山学校教育課参事、黒木教育総務課長補佐、宮崎教育総務課長補佐

傍聴者 1名

議 事

佐久間部会長

「つながりのある教育の創造部会」を開催させていただきます。

それでは、まず事務局から今回の部会での議題について説明をお願いします。

事務局(中野教育総務課長)

今回のつながりのある教育の創造部会におきましては、先程、説明をさせていただきましたとおり、「小中一貫教育を進める環境づくり」について、ご討議をお願いします。先ほども説明いたしましたが、19時20分には再び全体会を開始したいと考えております。約1時間ほどの討議時間となりますので、よろしく願いいたします。

なお、討議の柱といたしましては、部会の次第にもございます通り、①門真市の小中一貫教育の成果について、②先進市における義務教育学校・小中一貫教育について、③地域とのつながりを重視した学校のあり方について、についての3点で進めていただきますようお願い申し上げます。

佐久間部会長

ありがとうございました。この部会でずっと議論をしてきて我々がより詳しい資料を求めてきて、それを具体的にまた調べにいったりしているということで、向かっている方向性は今日改めて議論をする必要はないかなと思いますので、より更に具体的な意見を出せていけたらなと思っています。ではまず補足的なことで一点目の門真市における小中一貫教育の成果ということでこれまでのことをもう少し伺っておければと思いますので、事務局の方からもう少し詳しい説明をお願いしますでしょうか。

事務局（高山学校教育課参事）

学校教育課の高山です。資料はございませんが、口頭で説明させていただこうと思います。門真市の一貫教育の現時点での成果、それと最後に少し課題もお伝えさせていただこうと思います。

実は私はもともと小学校の教員をしております、9年前に教育委員会に来ました。この9年間小中一貫の移り変わりをみてきたんですが、10年間のスパンで見た時に、門真市の一貫教育は非常に大きく進んだと実感しております。

当時は、小中一貫教育課程研究委員会、後に幼稚園の先生方にも入っていただいて、「小中」を取って一貫教育課程研究委員会という名前になりましたけれども、そういう会議を市教委主催で年間に6回から7回程度開催しておりました。それぞれの学校から代表者が参加して、お互いの学校の状況であるとか、連携するために何ができるかなどいうのを話し合うといった会議でした。私も最初担当していたんですが、普段、小学校と中学校の先生が顔を合わせることは当時それ程なかったので、最初は皆さん若干よそよそしい感じがしたんですが、6回も7回も顔を合わせてワークショップなどを行ううちに、お互いに「元気でしたか」みたいな感じで、良い雰囲気になっていったことを今でも思い出します。このように10年程前はどちらかというと、交流といったところがメインであったと思います。ところが近年では中学校区単位で「相互授業参観期間」を設けて、小学校、中学校で、教員同士がお互い授業を参観し合うというような取組が行われていたり、「家庭学習ウィーク」といって、中学校の定期テストの期間を校区全体で家庭学習しましょうと保護者周知を行ったり、少し進んだ校区であると小中一緒に研究授業を実施したりしています。研究授業というのは何かというと、例えば代表の教員が授業をして、それを他の教員が、授業参観するんですね。それで終わったあとに、この授業の目的は達成されたとか、教材の使い方はどうだったとか、教員の発問は的確であったとか、子どもの議論や学びが深まったかとか、そういった観点でみんなで議論をするんですけれども、小中合同でグループ分けをして、小さなホワイトボードを使って書き込んだり発表しながら、討議しているような校区もございます。

このように、交流から合同実践、共同実践へと取り組みが進んでおりますので、市全体での市教委主催の会議は年2回程になっておりまして、校区ごとでしっかりと取り組んでいただいているというように大きくシフトしています。

次に2点目、課題についてなんですけれども、やはり小中学校間の物理的な距離が挙げられます。少し例を挙げて説明しますと、大阪府教育委員会の取組で、「小中学校間いきいきスクール」というのがあるんですね。これ何かというと小学校の先生、中学校の先生に兼務発令、つまり小学校の先生だけでも中学校に勤務しますよという辞令を、大阪府が一年単位で出すんです。それを根拠に、お互いの学校で教員が授業し合うという取組なんです。

例えば、中学校の英語の教員が小学校の高学年に行って外国語活動の授業を行ったり、反対に小学校は昨年度6年生の担任が卒業生出しますよね、その卒業生が中学での数学の勉強の補助に入るという取組なんです。

市教委としても毎年いきいきスクールを積極的にやっってくださいよというのを各学校の校長先生に言っているんですけれども、返ってくる答えとしては学校間の移動時間

を含めるとその授業の前後も潰れてしまって、1日3コマ分がなくなってしまうんだと。今現在の学校の人員でいくと、教員を出せないという声がどうしても多いんです。

例えば七中、五月田小とか四中、脇田小とか隣接校は取り組みやすいんですけども、本市は2小1中の単位で小中一貫教育を行っていますので、どちらか一方の小中だけで連携するわけにはいかず、やはりその距離的な壁というのがなかなかどうしようもないと、そこが最大の課題かなと感じております。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。

今のことでご質問とかあれば先にお聞きしようと思うんですけどもいかがですか。専門用語もたくさんあって学校はお分かりかなと思いますが、市民の方はいかがですか。聞いておきたいこととかありませんか。はい、分かりました。

では続いてですけど、今日2点目も先ほどスライドでとても素敵な学校の様子を紹介をしていただきましたけれども、もう少しそのあたりについて補足の説明をお願いできたらなと思います。よろしくお願ひします。

事務局（三村学校教育課長）

私の方から一貫教育学校、義務教育学校ですけども、教育課程の先進事例ということで話をさせていただきます。そうですね、スライドの資料①がお手元にあると思います。それで一応説明するために説明原稿も付けておりますが、このスライドのほうに目を通して聞いていただけたらと思います。

本市のガラスケが表紙になっておりますけれども、そこから順番として1枚、2枚、3枚4枚と右に進みます。小中一貫校ですけども簡単に言いますと、9年間小学校6年間、中学校3年間、つながったものという考え方の中で教育活動やっていくというのが一番わかりやすい説明になるのかなと思っています。9年間中で小さな子どもは小さい子どもなりに、中学生は中学生にあった教育をちゃんと段階を踏んで、ということが一番やりやすいかたちではないかと考えております。小さくて申しわけないんですけど、棒グラフが2つほど並んでいます。小中一貫教育の成果と課題とありますけれども、いいと言われる面が多いです。何がいいかというと、まず学習面に成果がないということで、子どもの意見ですけども、授業が理解できる、分かったと答える生徒が多いということだとか、勉強が好きとか勉強したいなという気持ちが盛り上がってきたという意見がどちらかというところ、施設一体型に多いというデータがあります。合わせまして以前にこの審議会でも出ましたけど、中1ギャップいわゆる小学校6年生から中学校1年生に、かつての意見の中にはそれも一定必要ではないかというご意見もあったと思いますけれども、そのギャップに対する不安が和らいだという調査結果もこのグラフから見て取れます。

プラスの要素としては小中学校の先生が同じ敷地にいますので、お互いの違いであるとか良さであるとか違いというものもすごく分かりやすいと、これは教職員の立場としての意見です。こういうメリットも挙げられております。また小中一貫の9年間の9学年の子ども達がいまですけども、校長先生は一人ということで一人の校長のもとで教職

員集団が、一貫した教育をいろいろ考えることができるというところもメリットの1つではあると考えています。ページをめくっていただいて次が最も大きな義務教育学校の特徴だと思うんですけども、教育課程が学校の裁量で一定決められると。一番分かりやすいのが、この学年前期課程・後期課程もしくは前期・中期・後期、前期・後期とさまざまな組み方があると。普通が小学校6年、中学校3年、6年、3年の括りですけども、例えば後程説明するきれいな学校でしたほそごう学園については、前期・中期・後期というかたちで1年生から4年生までの学年を前期、ここで基礎築くと、これが3年。今ある小学校5、6年、中1のところ、中一ギャップがあるところですが、これは中期。中学校2、3年に当たる後期。こういう3つの段階に分けたりということが可能になります。また思い切ったことに小学校5年生までを前期。小6、中1、中2、中3というところを後期、こういう分け方をしている例もあります。さまざまな子どもの実態に合わせて区切りが設定できるというのが一番大きな特徴というか魅力ではないかなと考えています。

あとほそごう学園の例がたくさんあります。先ほど綺麗なスライドの中にもありましたけれども、ほそごう学園も今申しました4年3年2年、この3つの前期・中期・後期に分けて取り組んでいます。また御存じかもしれませんが、小学校の授業は45分の授業。中学校の授業は50分の授業、実は5分のズレがあります。単純な素朴な疑問として、小中一貫校のチャイムはどうなっているのかと。小学校と中学校別々になっていますが、そこはどうなっているのかと言いますと、この細かくて大変申しわけありませんが、縦の時割表があるんですけども、1時間目と3時間目が同じ時間に終了になるように合わせておられます。ですので、小中一緒のところ、1時間と3時間目だけチャイムはなると。こういう工夫もされています。逆に言うと、1時間目にはチャイムはないと。そういう中でやりやすい授業スタイル、時には1年生が2年生、3年生と一緒に学年の隔たりを取ったような授業スタイルとか、そういうさまざまな工夫ができる形でやられているというのが今回特徴として出ております。

それ以外にも先ほど写真にもありましたが中学生のいわゆる7年8年生と1年生2年生と一緒に勉強することでありますとか、特にほそごう学園の場合には、英語に力を入れておられるということで、放課後にも英語の学習に取り組んでいるところ、写真もありますけれども、そういう部分もあります。またメディアセンターという部分では先ほどの紹介もありました、いわゆるICTパソコンと図書室が一緒になったスペースであるとか、あと交流ホール、多学年が交流できるようなホールということもほそごう学園ではされております。

最後に全体会の中でも新谷先生からもありましたけれども、メリット、デメリット両方あるんですけども、問題点も当然挙げられておりました。9年間同じ施設にずっと通うわけですから、人間関係の固定化であるとか、例えば先程出ていましたけれども、中学生が静かに勉強したい時に、小学生が騒いだりしないのかとか、テスト期間中に静かにしてほしいのになとかそういう疑問であるとか、逆に小学生からすると、もっとたくさん遊具があったらいいのにな、ブランコがあったらいいのにな、ジャングルジムあったらいいのになかなかできないという部分はありますけども、そうして最初に申しあげました9年間一貫した教育ができるという進学時のギャップが解消されるというメリ

ットの方が大きいのではということが挙げられています。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。より分かりやすい説明をいただきありがとうございます。

それでは先ほどの事務局の前半の説明でも小中一貫教育を門真でもやってきて10年間で随分と前に進んできたという説明だったかなと思います。しかしながらこの間の議論でいえば、子どもも減ってきたりとか、建物も離れていたりとかということも含めて、これ以上なかなか進もうにも進めようがないというところ、壁に当たっているというような趣旨の説明だったかなと思います。それから後半のご説明では全体会の説明でもありましたけれども、ほそごう学園の前半のスライドは写真のきれいな映像でしたけれども、もう少し詳しい学校の仕組みについての事例の説明をいただいたと思います。前回の議論で、既にこの部会で教育内容としても学年を超えたさまざまな交流ができるとか、あるいは地域の人が入ってとかあるいはそのための例えば探究的な学習のための施設が多様な施設がほしいということが、もう既に出ているので、更に特にここからまた新しい議論をしなければならぬということもないかと思うんですけども、全般的に今日も時間もない中ですけども、今日の全体会とそれから今の事務局の説明とかを受けて、もう少しこんな意見があればというなことがあればいただきたいなと思うんですけども。

学校側の方から、まず事務局の話も受けて、小中一貫教育が進んできたとか、あるいはもう少し例えば小中一貫校を作れば、更に進むのではないかとその辺の学校側としての実感とかも含めた意見があれば少し聞きたいなと思いますが、いかがですか。何でもいませんが、学校側から何かありませんか。

国吉副部会長

小中一貫のことで話が今出ておりますけれども、私も門真に来て10数年になるわけなんですけども、当初のころから比べて小学校中学校の教員間の関係はかなり詰まってきた感があります。ただもう少し進めないといけないところではまだまだ課題が大きいかなと思います。それは今佐久間先生がおっしゃるようにどうしたらもっとつながりがよくなるのかといいますと、やはり近さ、同じ場所、そこが一つのポイントになるのではないかと思います。

実は本校は中学校と隣同士でありまして、中学校、小学校1校同士であれば、交流しやすい関係にあると思うんです。ただ、もう一つの小学校が離れてまして、そこが入ってくるとやはり小学校同士もやはり進み方をそろえないといけないというところも足枷があって、少しその部分がしんどいところがあるかなと思います。

だから時間の取れる夏休みとかあるいは午後の時間使って3校の共通して取り組めることをやっていこうということで今現在は進めております。

佐久間部会長

ありがとうございます。

もう少し伺いたいんですけども、小中一貫校の施設一体型小中一貫校を作ってみて

はどうかというなことで、この部会は流れとしてそういう流れになってきていますけれども、先ほどの三村学校教育課長の説明でいうと良いことばかりな感じに見えますよね。授業の理解は進み、勉強を好きになり、意欲も向上し、不安もなくなり、中一ギャップもなくなるわけですが、このあたりはどう思われますか。こういうことになるだろうという想像はつきますか。

国吉副部会長

確かにいい面もあります。ただ先程三村課長の話ありましたが、チャイムはどうなっているんだということを最初思ったんです。確かに小学校は45分授業で回していきます。中学校は50分です。どうしてもチャイムは合わせられないんですね。合わせるとこだけ鳴らして、あとは子ども達の判断で授業を行うということなんですけれども、ただそこでもう少し疑問を持つ部分がありまして、私は中学校ですが中間、期末テストがあります。そういう時には子ども達は小学校でしたらやはり休み時間は20分休憩の時に外に出て遊んだりします。そういった場合に試験の時に邪魔にならないかという部分は少し危惧されます。

佐久間部会長

それについては何か御存じですか。混同されてるとか。

事務局（三村学校教育課長）

実は、今国吉委員から出された危惧は、ほそごう学園でも出ていました。先ほど、少し触れましたけれども、確かに静かな環境でやりたいというところに1年生から6年生も気を使っている部分がやはりあるという指摘は学校の方からの話の中にも入っていました。やはり発達段階、各9年間ありますから、要は1年生と9年生はかなりの差があります。その差を完全にクリアするような施設整備はなかなか難しいものがあるというのはほそごう学園でもおっしゃっていました。

佐久間部会長

防音にしたりとか工夫はできますね。ありがとうございます。

市民委員にお伺いする前に、急に来られてですが、良ければ今の議論を受けていかがですか。

齋藤委員

本校は門真はすはな校区で、合同研修会を年に3回行っています。それで互いの授業を見たり、あとは夏休みには道德であったり英語であったり、生活指導とか現在必要な小中の課題を検証する場があるんですけど、やはりまず日程調整から大変なところがあります。会議1つでも、担当者が打ち合わせするにしても、3校の日程を調整するだけでも、かなり限定されてきて、まずそこで壁といいますか、そういったものがあるかなと思います。毎年毎年繰り返していくことによって職員の一貫教育への理解が深まってきたんですけど、更に進むという部分では、やはり学校が離れている部分は厳

しいものがあるかなっていうのは感じているところです。

佐久間部会長

ありがとうございます。

では、市民の委員の方からも、前回随分突っ込んだ話し合いがされ、アイデアも言っていただきましたが、今日具体的に写真等を見られて、さらに考えられたこととか良いなど思われたこととか、もう少しこんなことがあればいいなとか、どんなことでも結構ですが、小中一貫校とか義務教育学校みたいなことをどこかで作っていかうとかいうあたりでご意見いただければなと思いますが、小林委員からお願いします。トイレも出ていましたね。

小林委員

はい、トイレは綺麗でしたね。

参考になるかどうかは分からないんですけども、小中一貫校になると、やっぱり中学生は受験があって、小学1年生2年生の子ども達は遊びたいから騒ぐ、参考になるかどうか分からないんですけど、中高一貫校の話なんですけれど、高校3年生に大学受験があるんですね。高校3年生の教室は4階で1番上なんです。中等部は1階、2階なんです。それで、受験時期になってくると高校1年、2年もそうなんですけど、中等部の生徒の方にも暗黙の了解で、その時期だけは静かにしましょうというルールが出来上がっているんですね。なので、高校3年生なので一番上の階に教室があるので、誰も上がってこないんです。高校3年生以外は上がってこないんです。だから受験勉強は充分できる環境ですね。だから小中一貫校は可能なんじゃないかなと思ったんですけど。

佐久間部会長

案外いけそうな感じということですね。

小林委員

はい。中学3年生の子どもが受験になりますよね。一番高い教室が4階建なら4階部分が3年生のクラスを持って行って、小学校1年生2年生の子どもは一番下の階に持っていこうというかたちであれば、問題解消は少しはできるんじゃないかなと思うんですけど。どうでしょうか。参考になったでしょうか。

佐久間部会長

ありがとうございます。参考になったと思います。配慮とか工夫とかを考えていかなければならないなと思いますね。

小林委員

もちろんチャイムは、最初の始業時間のチャイムだけで、あとはチャイムはないです。あとはもう教科担任の先生の判断で、時間は決まっているんですね。50分授業というのは決まっているんだと思いますが、授業内容によっては休憩時間に食い込んで、次の教科の先生がもう外で待っているという状態であったりとか、早く終わって休憩時間を

長く取れるとか、そういうのはありますね。意外とそれが結構良かったみたいで、チャイムがないのもいいかなと保護者としては感じましたね。実際に見学に行った時、授業参観に行った時に、初めて感じたのはチャイムがない、チャイムが鳴らないのにこの授業はいつ終わるのかなと思っていたら、生徒の方から先生もう休み時間入るけどどうなってんのか声を掛けたり、先生から少し早いけど、休み時間にしようかというのがありました。だからチャイムがなくても意外と良いかもしれないです。

佐久間部会長

チャイムについてはメリット、デメリットもあると聞くんですが、例えば発達障がいの子どものにとってはチャイムがあった方がいいという意見もあると思いますけれど、全教室に鳴らす必要もないと思いますので、その子どものためにも色々と工夫をすればいいかなと思いますね。貴重な意見ありがとうございます。

では続きまして横貫委員、色々な角度からでいいです。前回の続きでも構いません。

横貫委員

よく考えたら、私、中高一貫校に行っていました。そういえばそうでした。何の関係もなかったですね。チャイムの関係とか低学年がうるさいとかというのはあんまり感じなかったですね。もしかしたら大人が考えているより子どもは何とも思っていないかもしれませんね。それが1つと、子どもからも美容師をしていてよく聞くんですが、ながらの勉強をよくやっているの、音には耐えられるんじゃないですか。そこまでデリケートに考えなくても多分保護者が言うだけだと思いますので、本人達がそこまで深く思っていないんじゃないかなとは思いますが。音のことをうるさいとかいうことを考えたら、リビングで勉強するとかという時代でもありますし、そんなに深く考えなくてもいいんじゃないかなと思うんです。あと実際さつき学園の保護者の方から聞いたことがあるんですけど、運動会が凄く長い。まだ終わらないということがありますね。9学年あるので、9学年の運動会なので、凄く長いです。それは聞きましたね。

佐久間部会長

そうですか。2日分を1日でやろうとしてわけですからね。

横貫委員

そうですね。もちろんギャラリーも凄く多いですね。

みらい小もギャラリーが凄く多くて、規制がかかったりとかして大変そうですが、小中一貫にして多くなるとアリーナみたいなところを作らないといけないかなと思ったりするんですが。

佐久間部会長

ありがとうございます。

せっかく用意してくださった映像とかを改めてご覧になられて、何かご意見があれば、伺っておこうかなと思うんですがどうですか。

小林委員

メディアセンターというのはすごくいいなと思いました。
そこは生徒だけではなくて、地域の方も自由に使えるという違いがありますよね。違いますか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

メディアセンターに関しましては地域には開放はされておりました。

小林委員

でもそれは生徒が自由にいつでも勉強できるというスペースですよ。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

そうです。はい。

小林委員

それはすごく良いと思います。

佐久間部会長

小さな町とかなら、いっそ地域の図書館と同じ機能を学校に作ってしまって、両方を利用できるようにしたいというところもありますし、国によっては、そんなものはもうとにかく市民共通で学校の外に建ててしまってそこに両方利用しに行くという色々なかたちがあってもいいと思いますね。学校ごとに汚い小さい図書館がそろっているのも日本特有かもしれないですから、いいようにしていけばいいかなと思います。

小林委員

自由なかたちで、使うのが子どもたちは一番好きかなというのと、例えば机にがっちり座って本を読んだり、寝転がって読んだりとか、そういうことをしても問題ない、本が読める勉強ができるというのはすごく魅力だと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。横貫委員どうですか。

横貫委員

自分が子どもだったら、あの学校に行ってみたいですね。自分の時にはなかったんで、靴も履かなくて良さそうですね。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

時間があまりなくて、申しわけないんですけども、私の方から次の議題の関係なんですけれども、人間関係が固定されるというデメリットを事務局から説明されましたけれど、この事務局の説明で言えば、小規模校で10人の学校はそのまま10人で1年から6

年さらに中学でとなると、それこそ人間関係が固定される気がするんですけども、そのあたりですが、学校適正配置というのですかね、別のところで審議が進んでいるのかどうかとか、そのあたり詳しく教えていただければなと思います。

事務局（中野教育総務課長）

はい、これまで門真市では、適正配置の審議会を平成12年から3回に分かれて審議会が行われてきました。その中の実績で言いますと、これまでですと1つの小学校から2つの中学校に分かれないといけないと、同じ小学校の仲間が同じ中学校に行くのではなくて分かれて行くという校区がございました。そういった状況の解消をこの間の適正配置の審議会で行ったり、あとはその当時教育委員会が打ち出していた「小中一貫の推進プラン」これを実現するために、先ほども出ていたと思いますが、1中学校につき2小学校を配置することが適当だという考えを基本として、これまでの間、統合を進めてきた経緯がございます。その結果、門真市内の5つの小学校が2つの小学校に再編統合を、2つの中学校が1つの中学校に再編統合したという実績がございます。

今この場でもいろいろ議論をされておりますが、子どもたちにとってよりよい教育環境を早急に実現していくためにも、こういった再編統合も含めた学校適正配置については、この審議会の答申内容も参考にさせていただいた中で、学校適正配置審議会の開催も今後検討していかなければならないと考えています。

佐久間部会長

ありがとうございます。この部会はそのあたりを検討する部会ではないと思うんですけど、平成12年という。18年前ですか。18年前には1つの小学校の子どもが2つの中学校に行くような友達が離れ離れなことが起こっていて、それを解消するために色々としていって、最終的に2つの小学校から1つの中学校に行くという、私の子どもの頃みたいイメージのことが順調に進んで、それは一定終わったということですね。ところが、子どもが減ってきて、今度それも立ち行かなくなっていてという議論になっているんですよ。それについてご意見ございませんか。これについてはご意見ございませんか。

だから2つの小学校から1つ中学校に行きましたみたいなのはいつの話かわかりませんが古い話と、今の現状とは変わってきていますので、それを変えていかないといけませんので、それは構わないんですか。学校側から何か意見はありませんか。そこにこだわると今回の議論でいうと引っ付けにくいということもあるのかなと思ったりするんですけども。

国吉副部会長

今言っている部分は分かるんですけどね、先ほど言いましたけども、もっと小中のつながり、一貫を進めるためには、何があるかって言うと例えば中学校1校に対して小学校2校という、それが距離が離れたら、そのつながりというのは詰まらないと思うんですね。だから同じ居場所に3つの小学校2つと中学校1つとが一緒になることが、よ

りメリットの部分がかかなり大きくなるんだと思います。確かに課題もありますけれども、優先されるものだと思います。

佐久間部会長

齋藤先生も同じ意見ですかね。子どものために何が良いかということで議論すれば、必ずしもこの時代に杓子定規に2小から必ずしも行かなければならないということはないかなと思いますが、何か事務局の側でもご意見とかありますか。問題がなければ、この議論はこれでまとめたいと思いますが。はい、ありがとうございます。

ではそういうことも含めて、言いかたちで小中一貫校みたいなものを創っていったら良いなとかたちでこの間進んでいる議論ですので、一端それで終わりにして、最初の1番と2番の辺りのことですね、少しだけ振り返りますけれども、小中のそれぞれの教職員のつながりとか、あるいは学校教育全般は随分と前進してきたけれども、なかなか物理的な距離も含めて埋まりにくいところもあるので、そこはもっと改善の必要があるということが議論されたかなと思っています。何よりも子どものメリットを考えれば、1つだけ遠いところの小学校というのは、できたら解消できたいいなということ、それからデメリットと思われる部分も何とか工夫すればいけそうかなという市民の委員からも頂きました。メディアセンターも含めて、こんな学校があったらいいなというこの部会で一貫して話をしていることですが、こんな学校が創れたらいいなということで、ここまで議論が進んでいます。では最後に、少し時間があと15分ちょっとですけれども、地域とのつながりを重視した学校のあり方について、少し前回も特に小林委員の方から、なかなか地域と学校というのは、必要だけれども、なかなか場合によったら関係が難しいというようなこともご意見いただきましたので、先ほどの何でさっきのOSP (OUR SCHOOL PROJECT) も含めて何かいいアイデアというか、あればなと思っています。前回の続きでも結構ですので、ご意見があればなと思いますけれども。

例えば横貫委員からは、生まれてから一生のストーリーが見えるような場といったご意見をいただきましたし、それはもういいですよ。そんな感じのことがあったらいいなと思いますし、意見としてはもうこの部会でまとまっているなと思っていますので、具体的な保育所とかメディアセンターとかその辺はよろしいですよ。それではボランティアについて集中して考えましょうか。もう一度議論、課題を出してもらえますか。

小林委員

砂子小学校の話ですが、南小学校と水島小学校が一諸になりましたよね。私はその時初代PTA会長を務めました。統合直後で、けっこういろいろな問題があって、地域とのかかわり合いであったりとか、自治会であったりとかボランティアであったりとかとにかくまとめるのが大変で、つながりも大事なんですけど、なんせ学校も経験がないし、PTAの方も経験がないし、自治会の方もそういう経験がないし、ましてやボランティアの方も、統合ということに対して全然経験がないので、みんながどうするんだという状態で、砂子は始まったんです。ボランティアなんですけれど、とにかく子どもたちのために何かしたいという思いがすごくありまして、どんどんどんどん言ってきてくださるんですよ。学校も地域の方に、いろいろ教えてもらったりとか、入って来てもらいたいとい

うのも、もちろんあったんですけど、すごく線引きがなかったんで、何もない状態から始まってしまっているから、気がついたら、ボランティアの方はどんどん学校の中へ入ってくる、学校側は地域に入ってもらおうと悪いなというのがぶつかったりして、1年目は大変だったんですけど、やっぱり最初からルールを決めないと難しいかなと思います。特にボランティアの場合は、自分たちはこういうことがしたいと全面的に持ってくるので、学校とかPTA方はそこまではしてもらわなくてもいいよと言いたいけれども言えない状態になってしまっている。その辺でちょっとかみ合わなくなったりとかするんですけど。それがクリアできていれば、問題ないと思います。

佐久間部会長

前回国吉委員からは地域の方が参画するとあり方としては協議会みたいなことをしながらみたいなことでご意見いただきましたけども、ルールとか、学校の要望と地域の善意ですけど、強い気持ちのぶつかり合いといいますか、バランスといいますかその辺りは具体的に困っているとか工夫されてるかというのは、もう少しあればお伺いしたいと思うんですけど。学校は誰からともなく受け入れるわけではないですよ。

国吉副部会長

そうですね。

これも相対的なことだと思うんですけども、大きく見たら地域の方からいろいろ協力してもらおう点については学校としても非常にありがたい点は大きいです。ただ今小林委員が言われたように、細部にわたって細かいところまで言うと、その辺はやっぱりちょこちょこぶつかる部分はあるかと思います。でもお互いに学校にしても地域の課題にしても、子どもたちのために関わろうというようなあたり、やっぱり底流に流れているものがあるから、そこでやっぱり折り合いをつけるというか、やはり調整が必要だと思います。

佐久間部会長

その折り合いとか調整とかあるいはルールとかいうあたりというのは、私はよく知らないんですけども、校長先生がそれは困ると言ったらいいというレベルのものではないんですか。

国吉副部会長

そういう場合もありますね。私が全て前に出ている訳ではありませんけれども、それでも芝生化をしてくれてありがたいということがありますね。齋藤委員はご経験とかで何かご意見ありませんか。

齋藤委員

地域の方が学校に対して、すごく関心を持ってくださってますし色々と声もかけてくださってます。先日も雑草がかなり生えているから抜いであげるわと言われて、それもありがたくお願いしたんですけども、国吉先生もおっしゃったようにバランスが難し

いんで、それを調整する人物、今学校では教頭の役割かなと思うんですけど、そういったのを一手に引き受ける、それが地域にあってもいいと思うんですけど、そういったことを学校と地域との要望、それを双方の願いをうまく調整できるような人がいたらいいなって思います。

佐久間部会長

そうですね。横貫委員からご意見があればお願いします。

横貫委員

ボランティアって求められることをすればいいですよね。やりたいことをやるというのはちょっと違うような気がしますね。今、大雨で岡山とか広島が大変じゃないですか。個人物資をボランティアの方が送るんですけども、今届けられないから待ってていう話をちらほら見るんですけど、結局自分がやりたいという気持ちと、こっちがやってほしいという気持ちのズレがあって、ボランティアって求められることをやるべきであって、やりたいことをやるというのはこれはボランティアとは言えないような気がするんですけどね。そのズレが問題なんじゃないですかね。

佐久間部会長

おっしゃるとおりだと思います。素晴らしいご意見だと思います。

あと事務局に答えてもらいたいのは、今日回答が得られなければ、また別の機会でもいいんですけども、OSP すなわちアワースクールプロジェクトの、先ほど森田会長からもありましたけれども、どういう人たちが今のこの話のルールとか責任とか調整とか主体とかあるいは校長先生、教頭先生の連絡とか学校から要望を出したことをやっていただく組織なのかとか、あと大切なのは、部屋の、部屋そのものの自由に入出入りしているのか、つまり自由に入出入りするということは危ないことも起こりますよね。子どもに危害があるとかね。それぞれ入り口を分けてあるのかどうかとか。そのあたり詳しく何かあれば、分からなければ、分からないで構いませんが。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

今、動線のことについてお話があったと思いますが、地域の部屋は今まで私は4校の先進校を見てきているんですが、4校とも動線は綺麗に分かれていました。基本的に子どもたちが出入りする入り口と、地域の方の入り口は分かれています。建物も綺麗に分かれている所もあれば、1階の部分だけが分かれています、2階はつながっているというところもあるのはあるんですけども、やっぱり休みの日にお使いになられるということを考えたら、動線については学校の方には、地域の方は休みに自由に出入りができるけれども、学校には入れないという動線を作るといのは大事なのかなと感じました。

ほそごう学園ですけども、ここは学校地域支援本部というのを組織として作られていて、地域の方で運営するといった組織をつくられております。そちらの方に地域の方が集まって、そこで学校がこういうことをしてほしいということに対して、できる方が参加してお手伝いしてもらっているという状況だと聞いております。

佐久間部会長

そのあたりは、様々な配慮をしながら、人を選んだりとか組織を作ったりとか、その動線も含めて建物を造ったりとかということは充分色々考えることができるということですね。ありがとうございました。

今の動線を分けるというのは、学校の管理するお立場ではどういうイメージなんですか。必ずやっぱり必要なものなんですか。

国吉副部会長

地域の方といっても学校に常に関わっている、例えば学校支援地域本部事業の方と言えばほとんどもう学校に関わっている PTA の OB という感じを持っていますので、その辺のところは動線はそこまで分けなくてもいいかなって感じはします。

佐久間部会長

ボランティアの方々がたくさん入って来られたら、顔が分からないということもありますよね。教頭先生が一番苦勞するんですか。

齋藤委員

今、地域の方からの声を聞いているのが、多分教頭が一番多いと思うんですが、その場所も職員室の前の方とか、あるいは職員室前の廊下とかで、立ち話になってしまうところがありますので、そういう場所も必要かなと思います。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。

では今日の時間はだいたいこれぐらいになってるんですけども、言い残したことがあれば、伺おうかなと思うんですが、もう少しまた私の方からまとめに向けての話をさせていただいて、ご意見があれば伺おうということなんですけれども。

先ほど申し上げたとおり、もう少しあとで確認しようと思うんですが、1 番の小中一貫校教育の門真市の成果を受けて、さらに推進していくには物理的な距離縮めていくということも必要だし、様々な配慮や工夫も必要だということ。しかしやっぱり行ってみたいなというのが、この部会で進めてきた議論で、進めていきたいなということですね。そのためには適正配置でこの間平成 12 年から行ってきてことの現状必要なこと、つまり 1 小が 2 中に分かれるとか、2 小が 1 中にくっ付くとか必ずしもくっ付かなくてもいいということではなくて、子どものためにさまざま新しいかたちで、小中一貫教育を新しく作っていくということも、今日改めて確認できたかなと思います。それから地域のことも地域の強い気持ちが空回りするというご意見頂きましたし、今日改めてルールとか調整とかバランスとか、それから動線の問題とか、それからボランティアは求められることをするものであって、したいことをするのではないと、その辺のあたりでしっかりとルールを作っていけば、うまくいくのではないかとようなご意見いただきましたので、一定このあたりを全体会で話して、今日はこんな議論になりましたということで行きたいなと思っています。ではよろしいですかね。

国吉副部会長

非常に細かい話ですがよろしいですか。先ほどの映像を見た中で、細かい話なんですけれども、教室のスペースがかなり横が広がったですね。従来の教室だったら、縦に長いようなイメージがあるんですけども、

佐久間部会長

四角い感じですよ。

国吉副部会長

そうですね。なぜスペースの話をするかということ、現在の例えば40人学級のところ支援の子ども入れたら41人、42人で、従来の規格の机よりも今少し大きくなっているんですね。その人数が入ると今までの四角四面のあのスペースでは非常にしんどい分があるんです。だから教室を作る際に、横に広くでもいいですけども、やはり面積的に大きくゆとり持って造ってもらう方が、後々使い勝手がいいかなと思います。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。さつき学園の方ですかね。横が広くて色々な使い方ができて、あれも面白いなと思って拝見していました。

大体そんなところでよろしいですか。ありがとうございました。

とても豊かな意見が出てきましたので、是非実現に向けて、この部会でそれを決議する訳ではないですよ。だからいいように今後向かっていけばと期待をしています。ありがとうございます。では時間なので事務局の何かあればお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

ありがとうございました。

皆様に議論をしていただきました意見につきまして、その要版を全体会で佐久間部会長にご報告をいただきまして、審議会委員全員で共有させていただきたいと思います。

なお、全体会開始まで10分程度休憩を挟みます。19時20分には全体を始めたいと思いますので、お席までその時間にはお戻りください。